

オンリーワン商品

デュプロ精工

デュプロ精工(和歌山県紀の川市)は昨年7月、使用済みのコピー用紙など廃棄書類を白さ際立つ100%再生紙に甦らせる小型製紙装置「RECOTiO」を発表し、大きな反響を呼んだ。これまでデュプログループはペーパーワークに関わる様々なソリューションを提供し、数多くの「紙業(かみわざ)」を披露してきたが、新製品は環境保全と機密保持の両面に貢献する次世代機器。業界の話題をさらった注目作品がこの春市場に投入される。

RECOTiO PM-1000

デュプロ精工が設計・開発した「RECOTiO(レコティオ)PM-1000」は2010年7月7日～9日、東京ビッグサイトで開かれた「第1回エコオフィス EXPO」で初披露されるや、業界紙をはじめ一般紙、雑誌、TVなど多くのメディアに取り上げられ、大きな話題となった。

「エコオフィス EXPO」では数多くの環境製品出展社の中でもひと際注目を集め、デュプロブースには1千名を超える企業ユーザーが来場。その約四割は上場企業で、「環境対策だけでなく機密保持の観点で導入を検討したい」という声が聞かれるなど三日間賑わい、来場者が途切れることはなかった。仁坂吉伸和歌山県知事も視察のため来場しデュプロブースを訪れた。その後、9月にはインテックス大阪で開かれた「N-EXPO/KA NSAI 2010」(「ネキスポ関西」)、10月には「COP10」と連携した「メッセナゴヤ2010」に出展、ここでも多くの来場者を驚かせた。

◆ ◆ ◆
「RECOTiO」は、使用済みのコピー用紙およびレーザープリンタで出力した紙など廃棄書類を溶解し、トナーと繊維に分離したあ

と、100%再生紙に甦らせるという、これまでにない新しいタイプの古紙リサイクル装置。

これまで、印字成分(トナー)の除去は小型機では難しいとされてきたが、泡でトナーを浮き上がらせることで、トナーの除去に成功した(世界初)。

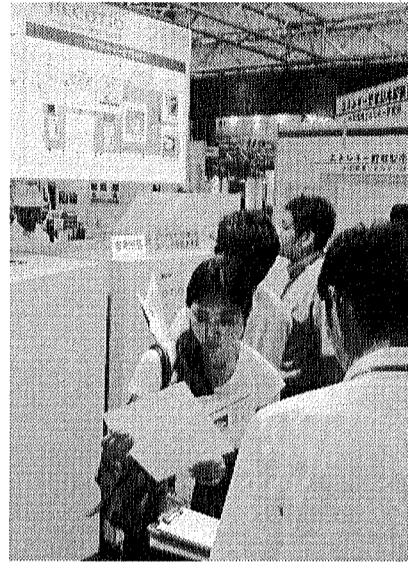
通常、紙のリサイクルは、製紙工場などの大型施設で行なうのが

環境保全と機密保持の両面に貢献する小型製紙装置

主流だが、デュプロ精工は自治体や学校に置くことが可能なサイズの実現。

コンパクトながら、製紙工場と同等の工程(原料回収・投入→溶解→脱墨→抄紙→乾燥→断裁)を一台で処理する。

1時間にA4サイズの再生紙を360枚生産することができる。「RECOTiO」を導入すると、再生紙を購入するのに比べ、CO₂排出量を約65%削減し、年間約88本の植林木を守ることになる(同社



来場者は紙の白さに驚嘆

調べ。

機密文書処理が内製化できるので外部への情報流出を防止し、繊維段階まで分解するので確実な機密保持が可能となる。



各展示会に参考出品され大きな反響を呼ぶ

商品名の「RECOTiO」とは、「Recycle」「Ecology」「Continue」の三つの言葉を組み合わせ合わせた同社独自の造語で、「リサイクルやエコを継続的に行なう」ことを使命として社員公募により名付けられた。

基本構想から約8年。このたび商品化に向け同社では再生紙事業を立ち上げ、新たな事業展開を図る。

◆ ◆ ◆
2010年12月1日、デュプロ精工のホームページ内に「RECOTiO」専用のサイトがオープンした。そこには製品のコンセプトをはじめリサイクルペーパーができるまでの工程、同社の環境に対する考え方、これまで各種報道で取り上げられた数多くの記事等が紹介されている。<http://www.duplo-seiko.co.jp/recotio/>

2010年12月21日には和歌山県庁での試用導入が開始した。2011年2月16日～17日にはグループ販売会社であるデュプロ株式会社(大阪市北区東天満)の新春フェアにて、RECOTiO特設会場を設置し、招待客に披露される。

世界で初めてトナー除去機能を搭載した小型製紙装置「RECOTiO」は、「紙を身近にリサイクルできる文化を根付かせ、世界に向けて発信したい」という同社社員一同の願いを込め、2011年4月1日、発売の日を迎える。